

障がい者病棟入所中の気管切開患者さんにおける  
Mycobacterium abscessus 分離株の亜種判別および院内伝播状況に関する  
前向き観察研究 に対するご協力のお願い

## 1. 研究の背景と目的

非結核性抗酸菌の一種である Mycobacterium abscessus (MABS) は、近年、医療機関や長期療養施設における集団感染のリスクが全国調査などで指摘されています。特に、亜種の一つである M. massiliense は、空気中に漂う微粒子（バイオエアロゾル）を介した感染や、医療従事者の衣服・医療機器の付着を介した接触感染を引き起こす可能性が強く示唆されています。当院では現在、MABS が検出された患者さんに対して、閉鎖式吸引カテーテルの使用や N95 マスクの着用といった感染対策を講じています。しかし、現在の検査法では詳細な亜種判別までは行えておらず、実際に院内で伝播が生じているかどうかを正確に把握できていません。本研究は、当院で検出された MABS 分離株の亜種を特定し、その薬剤耐性傾向や感染力の違い、ならびに院内での分離状況を正確に把握することを目的としています。これにより、バイオエアロゾルや接触感染に特化した、より強固で適切な院内感染防止策を構築することを目指します。

## 2. 研究の対象となる方

2026 年 8 月 3 日 ～ 2026 年 8 月 31 日の間に、当院障がい者病棟入所中の気管切開の気管支吸引痰検査の結果、Mycobacterium abscessus (MABS) が検出された患者さん。

## 3. 研究の方法

通常の診療（検査）の過程で患者さんから採取され、当院の検査室に保管されている MABS の菌株（試料）を使用します。

使用する試料：通常の診療で分離された MABS 菌株

使用する情報：年齢、性別、入院病棟、診療科、臨床症状、検査結果、治療経過、医療機器の使用状況など（カルテ情報）

解析内容：保管された菌株を用いて亜種判別のための遺伝子検査等を行い、カルテ情報と照らし合わせて院内伝播の有無や感染経路の傾向を分析します。

※本研究のために患者さんに新たな検査（追加の採血や痰の採取など）や費用の負担が生じることはありません。

## 4. 個人情報の保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報や試料は、個人を特定できる情報（氏名、住所、カルテ番号など）を削除し、代わりに別の符号（ID）を付与する匿名化（対応表を厳重に管理）を行った上で解析します。

学会や論文などで研究成果を発表する際にも、患者さん個人が特定されることは一切ありません。

5. 研究への協力を拒否したい場合（オプトアウト）本研究は、国の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意をいただく代わりに、研究情報を公開し、拒否の機会を保障する方法（オプトアウト）をとっています。「自分のデータや菌株を研究に使ってほしくない」と思われる場合は、いつでもお申し出ください。その場合、診療データ等は研究対象から除外いたします。なお、研究協力を拒否された場合でも、今後の診療において不利益を被ることは一切ありません。

6. 研究組織・お問い合わせ先本研究に関するご質問や、研究への参加拒否のお申し出は、以下の窓口までご連絡ください。

研究責任者：感染管理室 感染管理認定看護師 安江亜由美

実施医療機関：独立行政法人国立病院機構長良医療センター

問い合わせ窓口：電話 058-232-7755（PHS：7191）